

章	第5章 活力をうみ、賑わいのあるまちづくり（活力・賑わい）
節	第1節 産業
施策	商工業振興
質 問 内 容	
I 成果指標の進捗状況	①利子補給制度の利用率は、高いほうが良いのか？ ②利子補給登録者数に対する利子補給者数の割合としては、90%の目標値であり、実績値も近いことから順調であるといえる。 しかし、これではボリュームが分からないので、利子補給額そのものも成果指標とすることが必要ではないかと思われる。指標の設定が本末転倒では ③経済の低迷化が長期化する中で、目標達成は困難な状況にあるのは理解できるが、申請漏れの周知徹底以外に、有効な対策は考えられないのか。 ④補給要件とは
II 成果指標の妥当性、目標値の設定	①中小企業振興資金の利子補給の件数率（申込率）を成果指標としているが、商工業振興としては不況対策的な性格で積極性に乏しい。 元本400万円までの借入額に対し1%の利子補給は、年間4万円の支援に過ぎず、無いよりはましであるが有効性に乏しい。 泉佐野市のGDPを高め、雇用拡大に繋がるような指標が望ましい。関西国際空港のお膝元として、産業のスクラップアンドビルトを促進し、バイオ・情報・電子・環境エネルギー等の先端産業の誘致に努めることが肝要である。このためには情報収集に努め、一定規模以上の新規企業を誘致することが必要である。まさに政治のトップセールスが必要となる。誘致企業に対する固定資産税の大幅な軽減措置などが有効であり、このような指標が望ましい。 ②目標値90%設定の理由は。何故100%ではないのでしょうか。 ③新たな指標の追加を検討すると記載されているが、具体的に検討されている指標とは何か。 ④施策の目標である市内企業の育成や地域商業の活性化に向けて、展開されようとしている具体的な施策はあるのか。 ⑤セイフティネット的な内容に偏っていないか。建設的発展的な内容を盛り込む必要があるのでは ⑥他の項目にも言えることだが、横串を通した考え方、多面的な視点が必要ではないか。 ⑦商店街の活性化に関する指標の必要性は？

Ⅲ 内 容 そ の 他	①一部民間との競合が指摘されているが、官民共同の経営支援ワンストップサービスの実現を進めたほうが、事業の本来の目標を達成できるのではないのでしょうか？ ②既存の中小企業の健全育成という面が出ており、それなりの評価はできるが、泉佐野市の将来を見据えた積極的な対策が必要なのではないだろうか。 先端産業等に対する企業誘致優遇策が可能な限り採られ、市民の雇用を高め、市の経済発展を促進する施策こそが必要である。 ③社会背景の変化にフレキシブルな対応ができるような何か方策などはあるのでしょうか？ ④景気の動向に左右されますが、実績一覧表（利子補給）によりますと、平成 19 年～平成 21 年申請件数は、平成 13 年スタート時より減少傾向になっておりますが、それだけ市内企業数が減少しているのでしょうか。 ⑤商工会議所の提携・情報交換等利用拡大への方策・空港関連事業への積極的な取り組みは如何か。 ⑥地場産業支援センターの将来性は如何か。 ⑦政策が後手になっている。先手と働きかけていく企業の発想に乏しい。 高付加価値製品、新ブランドの創出に関しての取り組みが見えない
--	---